

19日に次の工程表発表

エネルギー政策のゆくえ

細野豪志・原発担当相



細野豪志原発担当相は8日、報道各社のインタビューに応じた。

——東電福島第一原発事故の収束に向けた工程表の「ステップ1」の目標期限が17日に迫りました。
「19日に、安定化に向けた次の段階（ステップ2）」

の工程表を更新して発表する。安全性評価（ストレスレス）の実施は、菅直人首相の意向ですか。
「国際原子力機関（IAEA）の閣僚級会合で取り

上げられ、日本政府も内々検討していた。九電玄海原発の再稼働に伴い浮上したのは首相の意向だ」

——原子力規制機関の組織改編について、経済産業省原子力安全・保安院の分離を含めて、いつまでにどうまとめますか。
「来週あたりから本格的な検討に入りたい。経産省や資源エネルギー庁が目指すべき『エネルギーの安定供給』という目標と、保安院が果たすべき『安全を確保する規制』は相反している。規制機関を経産省から完全に分離するのは間違いない。同省の外局とか、中途半端なものにする気はない」

——原発事故で放出された放射性物質の総量の累計値を新たに公表する考えはありますか。
「原発から日々出ている放射能の量は、福島県民はもちろん国民的な関心事だ。数値を出せていないので、まずそこを出したい」

——19日の工程表更新時に発表できますか。
「それに向けてやっている」

——菅首相の印象は。
「原発事故を乗り越えるために貢献したいという思いは非常に強い。『自分ではやらなければ』と思っただけで、執着心は強い」（聞き手・倉重奈苗、石塚広志）